

人間科学研究科修士課程論文コンテストの 入賞論文の掲載について

人間科学研究科長 神田信彦

昨年度、大学院人間科学研究科では、文教大学学園の経営戦略事業から支援を受け、修士課程在学者及び修了後5年以内の修了生を対象に人間科学研究科修士課程論文コンテスト（以下、論文コンテスト）を行った。これは修士課程関係者に研究を奨励し、研究への意欲をいっそう高め、研究水準の向上を図ることを目的として企画されたものである。

応募論文は5編（臨床心理学専攻在学生2名、と人間科学専攻修了生3名、計5名からの応募）であった。審査は各論文について研究科長、各専攻長及び教育研究推進委員長で構成した審査委員会が選任した人間科学研究科教員2名ずつがあたった。

論文の審査は「学術的独自性・新奇性」「研究目的と研究方法の対応」「論文の構成（当該領域で期待される論文構成となっているか）」「考察の論理性・新知見の有無」及び「体裁」の5つの観点に基づく総合評価によって行った。なお審査は応募者の名を伏せて勧められた。

次頁にはじまる松嶋淑恵さん（2010年度人間科学専攻修了）の論文「性別違和をもつ人々の実態調査—経済状況、人間関係、精神的問題について—」は、論文コンテストで優秀賞を獲得した論文である。同論文は「性同一性障害」概念の成立による功罪を整理、指摘すると共に、「性同一性障害」では括りきれない性別違和の人々が日常生活の中で抱えあるいは経験している問題を量的方法によって、未だ十分に研究が行われていない諸点を明らかにしようとした意欲的論文である。さらに、多様な性志向としてのX-ジェンダーやOジェンダー、模索中も含めた性的違和を感じる人たちの精神的問題や、他者との関係性、就労・経済状況等を結果として明らかにしたことは、性別違和の人々の具体的支援に示唆を与えるものと考えられる優れた論文である。

松嶋淑恵さんの今後の研究のいっそうの発展を期待したい。

最後に、大学院の「論文コンテスト」の入賞論文が人間科学部の研究紀要である「人間科学研究」へ掲載に至った経緯は、人間科学研究科が独自の研究紀要を持たないため、論文コンテストの趣旨に賛同していただいた野島人間科学部長はじめ人間科学部教員の好意と配慮によって掲載を認めていただいたからである。

快く掲載を認めていただいた野島学部長はじめ人間科学教員の方々に心よりお礼を申し上げます。

また、掲載手続きの検討等、種々にお骨折りいただいた紀要委員の今野教授と森恭子准教授に感謝申し上げます。